

実践報告資料

研究テーマ『 対話を通して 学び合う 子どもの育成 』

～自尊心を高める学級づくりを土台とした授業づくり～

研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名 (播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校)

ア 人権教育としてのねらい 人権尊重の精神のもと、「未来への道を切り拓く力」を育み、心豊かで自立する児童の育成						
イ 研究の概要 『学級づくり』では、「安心して話したり聞いたりできる雰囲気づくり」・「お互いのよい所を認め合える集団づくり」を目指していくことにより、一人一人が安心して過ごすことができる居場所が作られ、対話を通して学び合う基盤となる学級がつけられるであろう。そのために、教師が「①ぶれない、媚びない、動じない。」「②子ども達の話をつぶやきレベルまで聞き取れるアンテナを持つ。」「③管理職、生徒指導担当者だけでなく職員全体のほう（報告）れん（連絡）そう（相談）を忘れない。」の3つの姿勢が必要であると考え、『授業づくり』では、各教科の見方・考え方が働くような児童の学習意欲を喚起する課題を設定して児童の自己内対話を生み出す。また、「応答」や「聴き合い」など他者との対話を進め、児童が主体的になれる時間を保障することで自己有用感や自尊心を高める。						
領域	教 科	教 科	道 徳	特別活動	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	2年担任	推進教員	6年担任	全教職員	全教職員	5年担任
実施日	9月4日	11月26日	10月30日	6月～2月	11月5日	12月4日
取組名	どうぶつ園のじゅうい(国語)	発電と電気の利用 Wedoを活用して	感動・畏敬の念を 培う	縦割り班(スマイル班)活動	スポーツ フェスティバル	皮革工場見学会 (総合「命と向き合う」)
目 標	文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもち、共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。	発電と電気の利用に進んでかわり、他者と自分の考えを比べながら、粘り強く自らが意図したプログラムの構築に取りくもうとしている。	了海に対する実之助の心の変容を考える活動を通して、美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念を大切にする道徳的心情を育む。	異年齢集団の中で活動することにより、自分も相手も大切にすることを育てると共に、互いの良さを認め合い自分も含めた一人一人の良さを発見するようにする。	異年齢集団の中で活動することにより、自分も相手も大切にすることを育てると共に、互いの良さを認め合い自分も含めた一人一人の良さを発見するようにする。	地場産業である「たつのレザー」と皮革産業について学び、職人の思いや願いから、仕事の尊さと命の重みを知る。
資料名	「どうぶつ園のじゅうい」(「こくごニ上」光村)	「発電と電気の利用」(「わくわく理科6」啓林館)	「青の洞門」(小学生の道徳)			
指 導 内 や 指 導 法 工 等	単元の最後に、この説明文で筆者が伝えたかったことを話合うことで、自分とは違う物事の捉え方に気づき、児童間の理解を深める。また、主題を考える活動を通して、動物たちの現状を理解し、自分たちのできることを考えて、実行できるような子どもたちが一人でも増えるようにしたい。	照明スイッチを入切するためのプログラムをペア・班で話し合い、考えたプログラムをホワイトボードに表現することで、友だちの意見を受容しながらよりよいプログラムを考察させ意図した動きを共有しやすくした。	問い返しを主発問の場面に取り入れることにより、自己との対話、他者との対話を深められるようにした。また、対話について求める子どもの姿を(自分から意見があれば発言する→自分達で話を進める)と定めた。	異年齢交流が行われるように1～6年の全校児童で班を編成する。縦割り班をスマイル班と呼び毎週水曜日の業間に活動をする。また、今後予定される児童会中心の「6年生を送る会」などの集会活動やスポーツフェスティバルの中でも、縦割り班を利用した活動を取り入れる。	1～6年生が分かれて異学年で構成した縦割り班対抗のスポーツフェスティバルを開催した。練習段階から縦割り班のリーダーである5、6年生が中心となり練習メニューや上達のコツを低学年に伝えた。異学年で意見交流をしながら創意工夫を凝らした練習を重ねた。	「きみの家にも牛がいる」という絵本を導入し皮革に関心をもたせ、皮革工場を見学した。事前・事後学習の中で人権教育の視点を交えながら職人・革製品・皮革産業の素晴らしさを発見できるように学級全体で課題をつくり、「みんなで見つけたすごいところ」を模造紙に可視化した。

様式 2

学校名（播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校）

実施日：9月4日（5校時）	
領 域：国語	
取組名：「どうぶつ園のじゅうい」	
対 象：2年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の内容と自分の経験とを結び付けて感想をもち、共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。また、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 9の段落を読み、めあてを確認する。 筆者の一日の仕事を振り返り、出来事をワークシートにまとめる。 筆者の仕事について、発見したことや驚き、もっと知りたいことなどを書き、発表する。 筆者が、この説明文で何を伝えたかったのかを考える。 本時の学習を振り返る。 	
ウ 連携先：家庭・学園	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>毎日の宿題で音読をする場面や学校での学習内容の話を家庭や学園でした時には、児童のがんばりを認めた言葉がけや会話を心がけてもらえるように通信や懇談会などで呼びかける。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ等コミュニケーションの場を多くもち、自分の意見と友だちの意見の似ているところや違っているところなどに気づき、友だちの考えのいいところを取り入れまとめる展開を心がける。 学年部で対話の授業について共通理解をはかり、研修を進めていく。 筆者が、この説明文を通して伝えたかったことは何であるかを意識しながら学習を進めることでこれからの説明文に興味をもって取り組めるようにする。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ノート、話し合いの様子を観察、ワークシート 	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の導入として、教室側面に貼り出された段落毎の学習のまとめの模造紙を振り返らせることで課題に対しての自分の考えをスムーズに書き出すことができた。また、意見を聞きあう中で、人の考えの良いところを取り入れ、自分の意見をまとめようとする児童が増えてきた。 	
<p>ク 課題</p> <p>学力に個人差が大きいため、個人思考の段階でどの程度時間配分していくかがポイントとなってくる。また、交流の場でワークシートに書いた意見を自分から言い出しにくい児童も見られる。自分の意見や発表の自信を深めるため、さらなる仕掛けを考えていきたい。</p>	

※ 学習指導案、人権教育資料やその指導例、児童・生徒・参加者等の感想や活動写真、アンケート結果等、参考となる資料を添付願います。

実施日：11月26日（2校時）	
領 域：理科	
取組名：発電と電気の利用（プログラミング教材「WeDo」を活用して）	
対 象：6年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 発電と電気の利用に進んでかわり、他者と自分の考えを比べながら、粘り強く自らが意図したプログラムの構築に取りくもうとしている。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の振り返り。 ・ ロボットの動作を分解して命令をする順序について考える。 ・ ペアや班でプログラムをつくる。 ・ 班ごとにプログラムを発表する。 ・ 学習を振り返る。 	
ウ 連携先：家庭・学園	
エ 連携にむけての取組 学習内容のプログラムづくりやロボットの説明などプログラミング学習に関する話がでた時には児童のがんばりを認めた言葉がけや会話を心がけてもらえるように家庭や学園に通信や懇談会で呼びかける。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミング教材「WeDo」を活用することによって、電化製品の多くは、コンピューターから命令を出すことで作動しており、電気を効率よく利用できるように工夫されていることを体感することができるように心がける。 ・ ペアや班等、意見交流の場面を多くもち自分の意見と友だちの意見を聴き比べながらよりよいプログラムを構築できる展開を心がける。 ・ 考えたプログラムをホワイトボードに表現することで意図した動きを全体で共有しやすくする。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボードを使つての意見交流の観察 ・ 振り返りシート 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人やペアで話合った意見をもとにホワイトボード上でプログラムブロックを操作することで、お互いの意見の相違に気づき、友だちの良い意見を受容しながらよりよいプログラムに近づけようとする姿勢と班としての一体感が芽生えた。 ・ 学習活動をミッション形式で提示することで、ゲーム性のある活動に主体的に取り組ませることができた。また、振り返りの時間を持つことで、本時の学びを整理し次時の活動をイメージしやすくなった。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ パソコンと器機をペアリングする際には不具合が起りやすい。そのため、様々な場面を想定し、ペアリングができない場合でもプログラムを組む方法や代替えの展開を準備しておく必要がある。 ・ 前時の学習が次時の学習に大きく生きてくるため、振り返りシートには、お互いの考えの違いを伝え合ったり疑問を解決するために話し合ったり主体的になれる時間を十分に保障する必要がある。 	

様式 2

学校名（播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校）

実施日：10月30日（3校時）	
領 域：特別の教科 道徳	
取組名：「青の洞門」（小学生の道徳）	
対 象：6年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 了海に対する実之助の心の変容を考える活動を通して、美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念を大切にす道徳的心情を育む。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 青の洞門の写真を見て、思ったことを発表する。 ・ 登場人物の背景や関係、あらすじの説明を聞く。 ・ 後半部分を読んで登場人物の思いについて考える。 ・ 登場人物の生き方について考える。 ・ 学習を振り返る。 	
ウ 連携先：家庭・学園	
エ 連携にむけての取組 学校での学習内容の話が家庭や学園でした時には、児童のがんばりを認めた言葉がけや会話を心がけてもらえるように通信や懇談会などで呼びかける。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級づくりについて研修すると共に「対話的な授業」についての総論を具体的でわかりやすい記述に修正し、職員間で共通理解できるようにした。 ・ ペアやグループ等コミュニケーションの場を多くもち、自分の意見と友だちの意見の相違に気づかせ一人ひとりが自分事として考えられるように展開を心がける。 ・ 学年部で対話の授業について定期的な情報交換をはかり、研修を進めていく。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話合いの様子を観察 ・ ワークシート 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 命をかけて人のためにすることへの驚きだけではなく、実之助の心を動かしたものが人間にはあることや憎しみを超えてよりよく生きようとする生き方に感動していた。それだけに終わらずに自分たちの中にもその強さがあることに触れることで、生活につなげようとする児童が多く見られた。 ・ めあてを提示することで、主体的に取り組めるよう児童に考えさせることができた。また、振り返りの時間を持つことで、自分事として向き合えるようになった。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長文を扱う場合は、事前に読ませ、自分なりの課題をもたせることが大切である。 ・ ワークシートに書いたり、お互いの考えを伝え合ったり、疑問を解決していく上で児童が主体的になれる時間を十分に保障することが必要となる。 	

※ 学習指導案、人権教育資料やその指導例、児童・生徒・参加者等の感想や活動写真、アンケート結果等、参考となる資料を添付願います。

様式 2

学校名（播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校）

実施日：11月5日（2・3校時）	
領 域：特別活動	
取組名：スポーツフェスティバル	
対 象：全校	実施場所：運動場
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢集団の中で活動することにより、自分も相手も大切にする気持ちを培う。互いの良さを認め合い自分も含めた一人一人の良さを発見する。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1～6年生が分かれて異学年で構成した縦割り班対抗のスポーツフェスティバルを開催した。 ・ 練習段階から縦割り班のリーダーである5、6年生が中心となり練習メニューや上達のコツを低学年に伝えた。 ・ 異学年で意見交流をしながら創意工夫を凝らした練習を重ねた。 	
ウ 連携先：家庭・学園	
エ 連携にむけての取組 <p>普段の生活や休み時間の中で、児童間での言葉づかいやマナーに気を配り、自分もなかまも大切にしたい行いができるように温かく見守ってもらうことを学級懇談会や学級通信、PTA 委員会で呼びかけた。</p>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツフェスティバルの進め方やねらいについて職員間で共通理解を図った。 ・ 児童の班分けについては、活動の様子が把握しやすいように職員間で話し合いながら各班を決定した。 ・ 月1回の縦割り班活動の時間も使って練習をすることで、練習内容や時間の配分を縦割り班の児童たちで考え、より主体的な活動になるように工夫した。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動に取組む児童の様子 ・ ふり返りカードの内容 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年との関わりの中で5・6年生が思いやりや優しさをもって行動することができ、上級生としての自覚が芽生えた。 ・ 班全体を率先して引っ張る上級生を目の当たりにした低学年が、上級生にあこがれや敬意の念をもち楽しさの中にも凜とした雰囲気のあるフェスティバルになった。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ より児童が主体となって取組む活動にするため、児童に任せるところを明確にし指導の統一を話し合う必要がある。 ・ 今回の取り組みを次年度以降も引き継ぐとともに行事など機会ごとに、縦割り班を使った教育活動をしていく必要がある。 	

学習指導案、人権教育資料やその指導例、児童・生徒・参加者等の感想や活動写真、アンケート結果等、参考となる資料を添付願います。

様式 2

学校名（播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校）

実施日：12月5日（2・3・4校時）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：職人の思いや願いから命の大切さについて考えよう。	
対 象：5年生	実施場所：皮革工場（たつの市誉田）
ア ねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地場産業である「たつのレザー」と皮革産業について学び、職人の思いや願いから、仕事の尊さと命の重みを知る。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本「きみの家にも牛がいる」を導入に革に関心をもたせる。 ・ 社会科で学んだ自動車づくりと革づくりの過程をみての違いや気づきから、職人さんの思いや願いについて考えさせる。 ・ 皮革工場での講話をよく聴いて、命について考えるとともに働く人の思いや願いを知る。 ・ 工場見学を終えての学びを感謝の手紙にまとめる。 	
ウ 連携先：家庭・学園	
エ 連携にむけての取組	
日常生活の中で、子どもたちの人間関係や言動に注意し、命の大切さを感じたり仕事に対してのあこがれや感謝の気持ちを表現したりできるように家庭や学園などで助言してもらうことを学級通信や懇談で呼びかける。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科で学んだ「自動車づくり」と今回の「皮革づくり」をベン図にまとめ比べることで、同じ「ものづくり」に関わる職人さんの思いや願いを深められるように心がけた。 ・ 毎日の給食の中で「命の大切さ」や「感謝の気持ち」をもたせる。 ・ 「地域の産業や伝統・文化」に触れる機会を増やし、自分たちの地域に誇りをもたせる。 	
カ 評価の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 感謝の手紙 	
キ 成果	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地場産業や地域の伝統・文化に対して関心を高めることができた。 ・ 地域の方に指導や講話をしていただくことで、伝統的に受け継がれてきた技術や仕事の尊さ、身近な地域に対する畏敬の念を高めることができた。さらに調べたいという主体的な態度を培うことができた。 	
ク 課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域在住の優れた伝統技術を有する人材の発掘。 ・ 今回の取り組みを次年度以降も引き継ぐとともに給食や行事など機会ごとに、「命の大切さ」について指導していく必要がある。 ・ 6年生の「部落差別解消するための教育」にスムーズに移行できるように、部落史に関わる皮革について確実に皮革産業の歴史をおさえていかなければならない。 	

学習指導案、人権教育資料やその指導例、児童・生徒・参加者等の感想や活動写真、アンケート結果等、参考となる資料を添付願います。